



# かぜ 合志の旋風 ～自律貢献～

令和7年9月26日（金）No 20 発行  
文責：松本 卓也

## 決勝に残れなかったからといって 人生が終わりだとは思っていません 強くなってちゃんと戻ってきたい



9月13日（土）から21日（日）まで、東京の国立競技場で開催された「東京2025世界陸上競技選手権大会」。女子やり投種目で大会連覇が期待された北口榛花（はるか）選手は、予選14位で決勝進出を逃しました。6月末に右肘をケガした影響で、満足な練習ができない中での出場でした。競技終了直後のTVインタビューでは、「精一杯はできたと思っているので……。どうしたらいいかわからないです。」と涙ながらに語る程、苦しかった胸の内を明かしてくれました。北口選手は、前回大会で初めて金メダルを獲得した際、「他の選手が金メダルを獲るなら、ハルカに獲って欲しかったからとても嬉しい」とライバルからも祝福や称賛が相次ぐ等、競技にかける真摯な姿勢はもちろん、愛される人柄や人間性も注目を集めています。エピソードを2つ紹介します。

- ①やり投げを始めてわずか2ヶ月で北海道大会優勝、2年生で全国高校総体（インターハイ）優勝、3年生で世界ユース選手権金メダルと順風満帆な高校生活から一転、大学では、1年時に右肘を故障、さらに専門のコーチ不在と記録・結果へのプレッシャーから、3年時の日本選手権では予選敗退（12位）に終わる等、不振に陥りました。しかし、どんなに苦しくても、「陸上で大学に来て、辞めたら何も残らない。同級生たちは受験勉強をして大学に進学して、教員になりたいから教育学部、医師を目指して医学部、と目標を自分で決めていました。だから、結果が出なかったとしても絶対に辞めない、と心に決めていました。水泳、バドミントン、勉強、いろいろな選択肢の中でやり投を選んで、あの時、あれを選んでいればよかった……。という後悔をしたくない」という思いでグラウンドに必ず足を運んでいたそうです。
- ②欧州の講習会で出会ったシェケラック氏に、「今までは誰かが支えてくれるのを待っていた。でも、それでは思うようにいかない。自分からアプローチすることが大事だと気付いた」ことで直接コーチを依頼。単身でチェコに渡り、トレーニングを行ったそうです。

その後に行われた取材エリアでのコメントでは、「世界大会の借りは世界大会でしか返せない。決勝に残れなかったからって人生終わりだとは思わないので、ちょっと長い休みは必要かもしれないですけど、強くなってちゃんと戻ってきたいです」と述べています。あきらめない心、自ら解決策を見つけ行動する勇氣等々……。困難に直面したとき、どのようにして乗り越えていくのか？彼女の生き方が私たちにヒントを示してくれています。前を向き一歩踏み出す北口選手を、これからも応援していきたいと思います。



### 教師修養 第2弾 ～研究授業～

17日（水）5校時に、3年1組（数学）と1年1組（英語）で研究授業を行いました。学習意欲を喚起するために、学習課題を、数学では「（打った）ボールが天井にぶつかるかどうか、どのようにして求められるだろうか」、英語では「入学してくる小学校6年生に、中学校の先生の魅力を英語で伝えよう」と設定し、課題解決を通して学びを実感する授業を展開しました。友人と協働しながら、課題に挑戦する姿が随所に見られました。



### ようこそ、先輩！第3弾 ～教育実習～

22日（月）から熊本大学教育学部の4名の学生が教育実習を行っています。①教職を目指したきっかけ、②実習で頑張りたいこと、③どんな先生を目指すか、尋ねたところ、①「特別支援教育に興味を持ったから」、「物づくりが好きで教えることもできるから」、②「数学が苦手な子にも、楽しくわかりやすい授業を頑張りたい」、③「生徒の目線に立って話せる教師」と話してくれました。真剣な思いに嬉しくなりました。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）